

Apr.3, 2003

硬性憲法の思想的問題

長尾龍一

I 法哲学の任務

法及び法学の前提を問う(もちろん実定法学も自らの前提を問うが)

硬性憲法の問題

なぜ憲法は通常法律に優越するか？

神法（聖書、Koran、天孫降臨）

立法者崇拜（東照神君）

伝統主義（国体論）

秩序の安定

「基本法は安易に変更すべきではない」

「安易に」=単純多数決でも？

「感激時」の決意

「感激時」の意思は平常時の意思に優先する？

「祖先」対「子孫」

立法者による後の世代の拘束権

硬性憲法・憲法保障

40%の「祖先派」(祖先と同じ意見の者)の60%の子孫への優越

少数者の保護

多数決の限界

個人主義的自然法思想（自然権思想）

self-critical な社会

「少数者の権利」の限界

参考文献

長尾龍一『思想としての日本憲法史』（信山社、1997年）

第十章 「聖典としての日本国憲法」

第十一章 「『憲法変遷』論考」

第十二章 「『憲法変遷』再考」

長尾龍一『憲法問題入門』（ちくま新書）

第十章 「憲法改正」